

【行政】

・西川初蔵(1842~1921)

=真の偉人といわれた=

明治12年(1879)大野村村用係となる。函館大火には相謀って米百俵を寄付している。

翌年大野村他五か村の村総代となる。

大正9年(1920)、道産米百万石祝賀会で「朝日早生」の良種を研究・発見し、広めた功績で道長官から表彰された。

【産業】

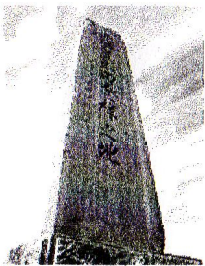
○野田作右衛門(生没不詳、元禄時代の人)

=蝦夷地で初めて米を収穫=

南部の野田村から移住してきた。

『松前志』や伝承によると、作右衛門は、元禄5年(1692)文月に450坪を開田し米10俵を収穫した。

昭和24年(1949)、大野村村内に「北海道水田発祥之地」碑が建った。碑は市文化財指定。



② 蝦夷の地に初めて咲かせた稲の花

北海道

水田発祥之碑

・品川文右衛門と6代目品川駒之助

=北海道の果樹の元祖=

『北海の果樹』によると、文右衛門が文月へ梨を植えたのは享保19年(1734)と推定され、大野、北海道の元祖でもあろう。

『自治産業発達誌』には、駒之助が代々続いた果樹園に「日本リンゴ、梅、スモモなどを混植し、年に多額の収穫をあげ、ついに果樹王国を建設した」と称えている。

○白川伊右衛門(1761~1807)

=本郷の開祖=

伊右衛門の開田は、箱館奉行から開墾奨励金を受け、文化2年(1805)から4年までで面積は45町歩(45^畝)に及んだ。場所は大郷寺から上町(本町)に掛けてであった。

この開田を基盤として本郷村が形成された。本郷村の一部を白川と呼び、功労に報いている。①水田の基いきずいた伊右衛門さん

・中村金兵衛・二代目(1841~不詳)

=郷土の商業の基礎を築いた=

初代金兵衛は下町(本町)に呉服、荒物商を開いた。継いだ二代目は明治に入り呉服商のほか工事の請負などにも従事した。

函館から長万部までの間に、当時まだない百貨店であったという。

みそ、果物など品評会に出品し上位入賞を果たしている。

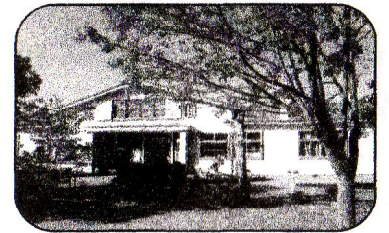
人物

大野にかかわりのある

.....33人

~関連して「おおの郷土史かるた」の読み句も載せた~

詳細は『新大野町史』の人物の項を参照されたい。○印は関係個所説明板に表記がある。



◆問い合わせ；北斗市郷土資料館

041-1201 北斗市本町2丁目12番7号

0138-77-6681



2011年3月

大野文化財保護研究会

(略称；大野文保研・ぶんぼけん)